

# 孫たちと爺々のオリエンテーリング

NO. 33

渡辺里香 (W 35)・幸 (M 13)・綺羅 (小 1)・来生 (5歳)・季香 (2歳)・東野基生 (M 13)・武石雄市 (M 65)

オリエンテーリング大会は行ったことがないところに行けるから楽しい (綺羅) 田沢湖や玉川温泉や十和田湖も見れるぞ! (幸) 間違わないでゴールを目指せ!! (来生) 行くぞ!! 青森県 (基生)

北海道・東北選手権大会参加

## 進路を北にとれ

東北でも山形から青森は遠い。大会前日は十和田湖温泉まで行ってYHに泊ることにした。玉川温泉や十和田湖も見たいので、金曜日に学校が終わったら全員爺々の家に集まった。

基生「僕、青森県に行くのは初めてだ」  
爺々「先月の岩手大会に続いて北の方に延長だね。基生君 秋田県も通るからね」

綺羅「モッチー、オリエンテーリング大会は行った事がないところに行けるから楽しいよね」

幸「みんな! 爺々が道路図をもってきたよ。今回はどこを通るのが興味があるな」

爺々「東根から十和田湖温泉までスケールをあてると37cmです。この地図の縮尺は65万分の1です。さて、距離は何kmになるでしょう。中学生が答えを出してください」

幸「37×6.5でいいのかな?」

基生「たぶん。えーと、240.5 だから240.5kmだ」

爺々「折角だから高速道路以外の直線に近い道路を通ることにしようよ。東根から新庄 大曲-田沢湖-玉川温泉 八幡平-十和田湖と進むと何kmになるかな?」

基生「さっき計算したら317kmでした」

爺々「下道は時速50kmとして所要時間は6時間半。昼食時間、そして玉川温泉と十和田湖の発荷峠見物を入れて10時間だね。明日は7時出発だ」

幸「本当に北に一直線だね」

爺々「進路を北にヨーソロー!」



ママとルンルの季香「ゴールはもうすぐだよ」

## 放射能に被爆?

玉川温泉には、地面にごさを敷いて何日もかけてのんびり湯治をしている人たちが大勢いる。紅葉真っ盛りなので紅葉を眺めて昼食だ。いきなり大量の熱湯が噴出し川になって流れている大噴湯、遊歩道のそばに蒸気が音を立てて「ゴールはもうすぐだよ」

噴出したり、硫黄が黄色に固まって累積されていたり、子供たちには珍しいところばかりだ。皆、車に閉じ込められていた鬱憤を晴らすように小高い丘を走り回っていると、ごさに寝転がっている湯治客が呼び止めた。

客? 「もしもし、小さい子供はこの付近にいると放射能で危ないよ」

爺々「北投石のことですね。ご注意ください。そういえば、あんまり小さい子が居りませんね」

客? 「私は、お医者様から北投石のあるこの付近で湯治したらよいといわれましたが、微量とはいえ放射能が出ているらしいので、小さい子にはよくないかと思って申し上げました」

基生「北投石はどこにあるんですか」

爺々「この付近の石はほとんど北投石だよ。ほら、あそこの小高い丘に天然記念物の標柱を建てているよ」

綺羅「モッチー、行ってみよう」

来生「ゆき、僕たちも行こう!」

幸「よっしゃ! 来生、筋トレのため

おんぶで行くぞ!」

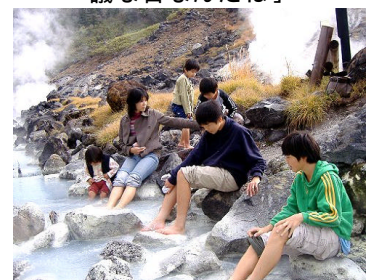
爺々「転ばないようにー!」



幸(左)と基生(右)におんぶされた来生と綺羅

爺々「爺爺の記憶によると、北投石は、ここのほかに確か台湾の何処かにあるそうだよ」

綺羅「普通のように見えるけど、不思議な石なんだね」



天然足湯

## 頑張った4人兄弟

大会では幸と基生が13歳で青年選手権クラスに挑戦、爺爺はベテラン選手権、綺羅と来生が少年少女組、ママと季香が家族組のグループに出場。コースが同じでこの二組は他の参加グループと関係なく無視して抜きつ抜かれつの接戦??

綺羅「爺爺、僕たちも表彰されたよ」  
ママ「途中でおしっことかウンチとかで大変だったのよ」



小林啓恵さんとよたよたの爺爺



ゴールに走る綺羅と来生

爺爺「らいちゃんも地図をもらったんだね」  
来生「コンパスも持っていったよ」  
季香「ききょうちゃんもご褒美もらったよ」  
爺爺「おめでとう、よかったね。じいじいも頑張ったけど登りがきつくて秋田の智田さんに抜かれたよ」  
ママ「幸が青年で12位だって」  
爺爺「おっ！幸より下に山健さんや大学生が10人ほどいるね。基生君は何処かでぶっ飛んでるね？」  
基生「はい、からポストに直進して道に出たところで現在地をロスとして20分くらいうろろしちゃたんで」  
幸「僕は3番で少し回ったけど今日はそんなに難しいと思わなかったな」  
爺爺「それではいつものようにそれぞれのルートチョイスを書いて二人で反省会をきなさい」  
幸「今年はこれが最後の大会だね。もうすぐスキーだしね」  
爺爺「1月21日にジュニアチャンピオン大会があるけど、中学選手権に出るか？」  
幸「どこななの？」  
爺爺「埼玉県日高市だったかな？」  
幸「部活ないといいけどな」  
爺爺「申し込み締め切りまで考えといてね」

## 頑張った青森県協会

東北の協会は一部を除き老化現象の中、青森県協会は意地と強情っぱりの県民性を発揮して見事にやり遂げました。

勤務先高校で顧問の立場を利用し山岳部員を運営者に仕立て上げた幸山敏克氏に大きな拍手で検討を称えたい。幸山氏も多分、準備に苦労したぶん、達成感を感じている事でしょう。

当初、某大学大会とバッティングし、参加申し込みが少なくてさびしい大会を予想しましたが、この大会に思い入れる選手も多く、予想以上の参加者があって大会消滅の懸念が払拭されました。

全国のプロックで選手権大会を開催しているところは他にあるかどうか知りませんが、東北は来年度岩手県に持ち回りで決定しています。

東北・北海道の皆様、今後も楽しみましょう。

(武石雄市)